

# 大樹の礎

Taiju no Ishizue

## 新しい年に

日本医療科学大学 学長 佐藤 泰正



本学の学生諸君、そして御父母の皆様方、  
あけましておめでとございます。

昨年は「政権交代」や「円高」など、わ  
が国の政治や経済の面でいろいろ変化の  
あった年だと思えます。

新しい年が皆様にとって幸運な年であり  
ますことを心から願っております。

さて、本学も開学四年目を迎えます。四  
月には新入生が入学し、四学年の学生が揃  
います。大学も現在、新校舎を増築中で、  
今年中に講堂や図書館をはじめ大講義室や  
グループ研究・学習室が建てられます。学  
生諸君をはじめ大学関係者の学習・研究活  
動の向上に寄与することと思えます。

四月にはそれぞれ学年が進み、専門基礎  
科目や専門科目の講義が増えてくると思  
いますが、しっかり勉強して、保健医療に関  
する知識と技術を身につけて下さい。

最高学年になる諸君は本格的な臨床実習  
に入りますが、指導者のもと臨床技術を  
しっかりと身につけて下さい。また、国家  
試験という難関を通過しなければなりません。  
学習の計画をたて、合格目指してがんば  
ってください。

さて、高齢化社会はますます進んでくる  
と思えます。皆さんの習得した知識や技術  
を必要とする時代になります。十分対応で  
きる能力、技術を身につけて下さい。それ  
と同時に「福祉の心」も学んでください。  
すなわち、思いやりの心、助け合いの心、  
そして生命を大切にすることを身につける  
ことですが、それは本学の建学の精神であ  
る「報恩感謝」に通じるものです。そのこ  
とを心に刻んで勉学に励んでください。

## 伝えたいこと

小川 互

我々医療に携わる者は、「健康とは何か」について十分知っていなければならぬ。WHO「世界保健機関」はその憲章の前文で「健康」を定義している。一九九九年、この定義に次の2つの言葉が追加された。そのひとつは dynamic (動的) であり、そしてもうひとつは spiritual (霊的) である。動的はいいとして、霊的は多くの議論をへて採択されたといわれている。WHOは「健康」の定義を「身体的・精神的・霊的・社会的に完全に良好な動的状態・・・」と変更した。若いみなさんは「霊的に良好な状態」というのを想像できるだろうか。私は、共感というのは霊的能力のひとつだと思っている。霊的に良好でないと相手の喜びや悲しみなどわからないと思うからだ。WHOでは、たばこを止めましょうとか運動をしましょうとか健康になるための方針を示しているが、「霊的」に関しては何も言っていない。これは医療に携わる者なら、時間をかけてじっくり考えるべき課題なのではないかと思っている。

(おがわ わたる・本学准教授)

# 大樹祭 開催!

10月31日(土)  
した。当日は好天  
の方々を言めて  
成功裡に終了した  
当日の様子を

## 須藤元気氏が来校!



## 「マイナスなことはいわない」「プラスのことしか口にしない」

大樹祭では恒例となった本学客員教授青島健太先生の講演会に、本年は元総合格闘家である須藤元気さんを初めとしてマルチな活躍をされている須藤元気さんが参加され、お二人で「対談バトル! 身体のこと、心のこと」というテーマで存分に語っていただきました。

配布されたプロフィールには、「格闘家」のイメージからは遠くかけ離れた多方面での活躍ぶりが列挙されており、現在は大学院において地方政治行政を研究されていることにも驚嘆させられました。

にもかかわらず、お話しの内容はユーモアにあふれ、御自分の体験に裏付けられた説得力のある事柄ばかりで、参加者は笑いの中にじつと聞き入る場面も多く、特に本学の学生は将来の医療現場で必ず現れるであろう壁を乗り越えるためのヒントを得ていたようでした。

壁におつかったとき、人はどうしても「できない」「やりたくない」といった言葉を思ったり口にしたりしがちであるが、「マイナスなことはいわない」「プラスのことしか口にしない」と心がけるだけでずいぶん自分自身が変わっていきますとの言葉を的確に話していただき、大きな拍手の中で一時間の講演会を終りました。

## 課外活動の御紹介

学生が進むにつれ、本学の学生のサークル活動も活発になってきていますが、それだけではなく、積極的に学外での活動も広げているようです。今回は、そんな課外活動の一端を御紹介します。是非覗いてみてください。

### ◆ なりこみリーナー卒業の両立LUNSN

理学療法学専攻 三年 大谷 明香



小さいころからサッカーをやっている私にとってサッカーは日常生活の一部であり、やることが当たり前すぎるので学業と両立しようという意識はそれほどありません。むしろサッカーを中心とした生活の中に、学業が入ってくるという感覚はなかった。

今回原稿依頼をいただいたことと、私のやっているサッカーと学業が本当に両立しているのかを改めて考える良い機会となりました。

「勉強は授業中にやりきる」と考えてやってきましたが、大学になるとそうはいきません。当然、講義以外でどれだけ勉強に打ち込めるかが重要になってきます。その意味では、現時点での両立はできていないのが正直なところですが、特に今年一年は、なでしこリーグ一部昇格に懸ける思いが強かったので、尚更だったと反省しているところです。

これから実習が続くので、益々両立は難しくなってくると思いますが、サッカーも大学の勉強も「夢」に向かってやっているとなので、途中で諦めることなく進めたいです。

将来、夢が実現できたときにきっと、「両立できていたんだ」と自分自身に言えると思っています。

### ◆ 高校野球連盟のメディカルサポートに参加して

理学療法学専攻 三年 加藤 秀和



今夏、私は夏休みを利用して、高野連とPTで実施される、高校野球連盟のメディカルサポートの現場に参加させていただきました。

内容は、スポーツ傷害の発生を防ぐためのメディカルチェック、コンディショニング指導などを行うとともに、試合中に待機し、急性のスポーツ外傷にも対応するといったものである。今回見学させていただいたのは、侍機屋と試合後のクールダウン風景である。侍機屋ではテーピングテープなど、我々が普段学習していないものも多

数見られた。またクールダウンは、野球という競技特性に合わせて、毎年より良くなるように、内容を変化させているようだ。これらことから、理学療法士の国家試験とは関連の少ない領域での知識が必要であることが分かった。スポーツ現場では理学療法士の知識・技術を身に付けたりうえでプラスαが必要とも感じた。しかし、知識・技術を高めることでスポーツなどの分野でも活躍できることを知ることもできた。今後のプラスになった。このような機会を下さった、研究会の先生方、本学教員の先生方には深く感謝を申し上げます。





## 第4回 大樹祭を終えて

大樹祭実行委員長  
理学療法専攻 三年

中野 恵太



今年の大樹祭実行委員長を務めさせて頂きました中野恵太です。十月三十一日(土)に行われた文化祭の報告をさせて頂きます。今年度から大樹

祭は前身であった城西医療技術専門学校で専門学生が卒業し日本医療科学大学単独での開催となりました。今回は大学としての様々な絆を深めるためにも「團結」というテーマで約半年間準備に取り組んできました。大樹祭の準備期間は勿論ですが大樹祭の当日も含め学生同士の繋がりが、先生方と学生の繋がりが、地域の方と学生との繋がりがなど様々な方との絆が生まれ、テーマであった「團結」の実現が果たせたと感じております。当日はゲストとして元総合格闘家の須藤元氣様やKaiceen様を招くことができました。御二方には大変興味深い講演を

に第4回大樹祭が開催されま  
に恵まれ、学生・保護者・地域  
三年を大きく上回る参加者で  
しました。  
紹介いたします。



して頂き非常に中身の濃いイベントが行え、前回よりも更に多くの方々に来校して頂くことができました。模擬店では父母後援会の皆様や障害者自立支援施設「やすらぎ」の皆様の出店もありたくさんの方々にも楽しんで頂けたかと思えます。また、今回も各企業様などから多数の協賛を頂くことができました。前回以上に盛大な文化祭が行えました。次回は、大学の完成年度でもありますので更に発展した大樹祭になると考えております。是非次回もご来訪くださいますようお願いしております。



「よさこい」を再現



優雅に美しく

既にお知らせした新しい図書館棟の地鎮祭が、十一月十三日に新藤宣夫理事長、佐藤泰正学長、佐田日本建設社長を初めとする関係者列席のもと執り行われました。

## 図書館棟建設に向けて

学城西医療学園 理事長 新藤 宣夫

大学を初めとする教育に携わる者にとって、教育環境・教育設備の充実には、国家・社会から託された崇高な責務であります。

とは言いながら、現下の厳しい経済状況の中にあつては、「言うは易し 行うは難し」という現実が一方にあることも厳然たる事実であります。

したがって、今般新たに図書館・講堂を中心とした新校舎を建設する運びになりましたことは、ひとえに関係各位、保護者の皆様の温かいご理解の賜物と改めて御礼申し上げる次第です。

もとより、教育環境の整備に終着点はありません。一人ひとりの本学学生が、入学当初の夢と希望を叶えられるよう更に一層力を注いでまいりますので、御協力の程をお願い申し上げます。



穿初之儀(うちごめのぎ)を行う新藤理事長

# T O P I C S

＊十月十六日(金)に学生有志による大学周辺のエコ活動が行われました。大学構内全面禁煙を受けて学内での喫煙はなくなりましたが、登下校の際のポイ捨てなどが目立つため、美化運動だけでなくマナー向上の一環としての活動となりました。



＊十一月十二日(木)に、現日本高等教育評価機構副理事長で、前明海大学学長の高倉翔先生をお招きして、「FD・SDの組織的な実施をめざして」と題する講演会が本学の全教員参加のもと行われました。全ての大学は七年度に一度、自己点検・自己評価が義務付けられており、大学の質の向上のためにどのような指針を持つべきかについてお話しいただきました。



＊日本医療科学大学研究紀要の第二号が発行されました。今回の掲載論文は原著が二編、論説が五編の計七編で構成されています。

学内に設置された紀要委員会を中心として、本学の研究水準向上のため、今後のさらなる充実を図る努力が進められています。

紀要は図書館にありますので、是非一読してみてください。

＊平成二十一年度文部科学省科学研究費補助金「若手研究(B)」に本学の解良武士准教授の研究が採択されました。研究課題名は「クロモグラニンAを用いた呼吸運動回調現象中の自律神経解析」で、研究期間は二年間です。

＊オープンキャンパスとは別に高等学校単位での大学見学が増えていきます。今年も、栃木県の壬生高校、群馬県の西田乗高校を初めとして、朝霞高校、所沢西高校など多くの高校生が団体で本学に来校されました。

## 編集後記

昨年は新型インフルエンザの問題で、各ご家庭でもまた大学でも神経のすり減る一年でした。まだ油断はできませんが、この広報誌が発行される頃には、沈静化していることを望みます。

(S)